

市長 荻野正直 様
日本国笛吹市

2011年6月15日

親愛なる荻野市長様、親愛なる同僚殿

高松さんに翻訳・転送をしていただいた6月10日付のお手紙どうもありがとうございます。市民や協会の寄付金が日本の震災の犠牲者まで届いたこと、大変嬉しく思っております。送っていただいた報告書と写真は市民たちに報告いたします。日本の市民がうけた3つの災害はドイツでは大きなショックであり、そして同情の念を禁じませんでした。

日独の間は距離があるため、私は寄付金以外の援助は難しいと理解しております。しかしながら、もし笛吹市に対してなんらかの支援ができるようであればお申し付けください。

ところで、このたび初めてお手紙を差し上げますので、自己紹介させていただきたいと思っております。ご存知のとおり、3月27日にバート・メルгентハイム市の新しい市長に当選。5月20日に就任いたしました。それ以降、私のスケジュールは会議や市の代表としての仕事、市民との会議と対話でいっぱいです。就任後の最初の数週間はある間に過ぎてしまいました。

私は50歳です。前の仕事は経済促進の分野で国際的に仕事をしていました。姉妹都市は両都市の深い関係、個人ベースの深い関係があります。そのため外国の文化の理解、そして世界平和への貢献ができると認識しています。こういった理由から私は笛吹市とバート・メルгентハイム市の関係を大切にたく存じます。そして両市の関係と市民同士の関係をさらに広げ、深めたいと思っています。

笛吹市、または石和町との姉妹都市20周年記念を今年祝いたいと思っていたのですが、年が開けて難しいという連絡がございました。その上で大きな災害が日本にありました。しかしながら、私はできるだけ早めに個人的にお会いし、記念年のお祝いできることを願っています。

私たちの寄付金の募集は今年末まで続けます。そして秋に、もしかすると12月にもまた振り込もうと思います。振り込む前には早めにご連絡差し上げます。

日本、または笛吹市が、地震、津波、原発災害から早く復興し、普通の状態に戻ることを

お祈りいたします。私は、それが必ずできると確信しております。連帯と本当の友好関係は災害の時にあらわれます。日本の国民と一緒に頑張って問題を解決するのを何度も証明しています。私たちはドイツで日本人の友人のことをいつも考えています。

荻野様、笛吹市、日本の御多幸をお祈り申し上げます。

敬具

ウド・グラットハール